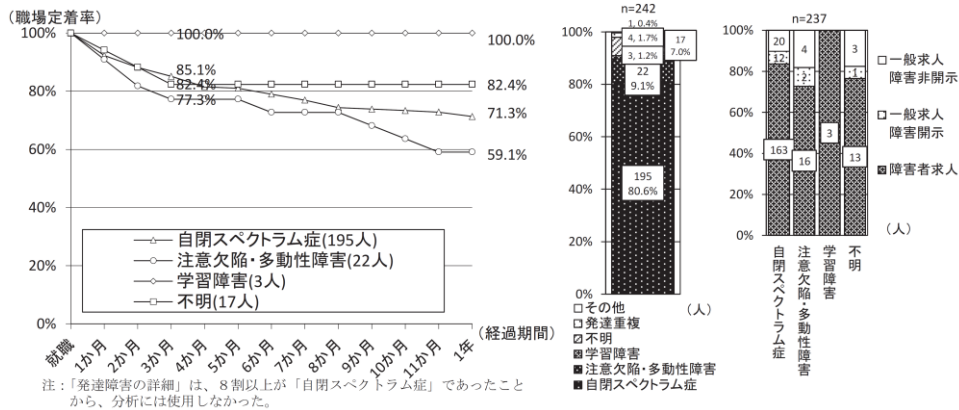


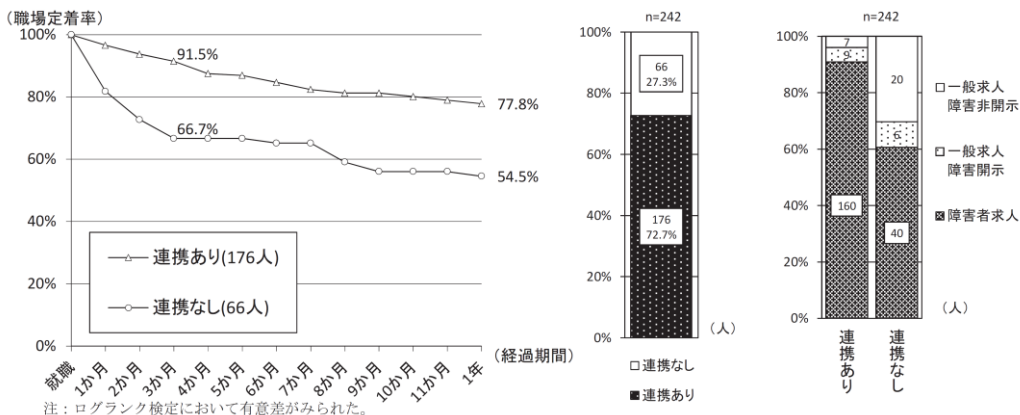
# gb Opinion Report

株式会社 global child care 田村 孝司

## 発達障害の詳細別、就職時の連携機関別にみた発達障害者の職場定着率の推移と構成割合が示唆する早期発達支援の重要性



図表 1 - 9 - 6 発達障害の詳細別にみた発達障害者の職場定着率の推移と構成割合



図表 1 - 9 - 24 就職時の連携機関別にみた発達障害者の職場定着率の推移と構成割合

出典：障害者の就業状況等に関する調査研究

(<https://www.nivr.jeed.go.jp/research/report/houkoku/houkoku137.html>)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響は感染による健康被害に加え、人間の社会生活に影響を与え、2020年平均の有効求人倍率は1.18倍となり、前年比0.42ポイント低下した。障害者の雇用は政策によって基準が設けられ、雇用情勢は改善しているが経済情勢の影響を受けやすい。

上記図は発達障害の詳細別、就職時の連携機関別にみた発達障害者の職場定着率の推移と構成割合に関する資料である。本資料は2017年4月に公表された障害者の就業状況等に関する調査研究に記載されたものである。この研究では障害者の就業状況について総合的に調査された研究であり、身体障害、精神障害、知的障害に加え、発達障害についても調査・分析が行われている。すべての障害に共通していた短期的な定着に関連する要因は「障害を確認した後の職歴」「失業期間」「求人種類」「就職先企業の従業員規模」「就職前の訓練」「支援制度」「就職時の連携機関」「公共職業安定所の就職後の指導」「支援機関の定着支援」であり、長期的な定着においては、「求人種類」であった。

発達障害については求人種類、障害の程度、従業員規模、就職前の訓練利用の有無、チーム支援を含む就職時の連携機関の有無、支援制度活用の有無、公共職業安定所の就職後の指導の有無、支援機関の定着支援の有無、障害を確認した後の職歴、失業期間、就職した職種、請負の別で障害の確認前の職歴、失業期間、求人種類、週労働時間、求人開拓であった。発達障害の詳細別の分析では調査対象の9割が自閉症となっていたため、詳細な分析がなされていないが注意欠陥・多動性障害の定着率が低い傾向がみられている。

発達に特徴がある子どもに対する早期支援は重要である。Perry preschool project は30年以上継続的に観察され、多くが0歳時点から受けた支援群はそうでない場合に比べて収入が高く、高学歴で逮捕歴が少ないことなどが報告されている。

早期発達支援は早期発見と適切な支援の提供が必要となる。発達の特徴は早期支援によって、実際の機能が改善する場合と表面に現れにくくする場合がある。より早期から適切な支援を受けることは、発達の特徴に合わせた社会適応の方法を機能の状態に合わせて発達をデザインできる利点がある。この発達を子ども自身、保護者と共に支援者が専門的に支援することで就業時の定着率が高まるのではないだろうか。安定して就業できることは人生における選択肢をより豊かにする可能性を高め、子どもたちの自己をより実現していくと考えられた。

●当レポートは、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。当レポートのご利用に際しては、ご自身の判断にてお願い申し上げます。また、当レポートは執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。なお、当レポートに記載された内容は予告なしに変更されることもあります。当レポートは著作物であり、著作権法に基づき保護されています。当レポートの全文又は一部を著作権法の定める範囲を超えて無断で複製、翻訳、翻案、出版、販売、貸与、転載することを禁じます。